

1997年、イオンジェームス山店（当時の名称、サティジェームス山店（運営は株式会社ニチイ））が出店する時、商圏内で反対を唱えたのは塩屋商店連合会（現一般社団法人塩屋商店会）と中野センター商人会だけでした。大規模小売店舗法（大法）が廃止になる直前で、当時ニチイの担当者は小さな商店会の必死の訴えに良く付き合ってくれたと、今にしています。それはさておき、こちらとしても必要とあれば大阪の通産（現経産）省、県や市当局、商工会議所、さらに県議会・市議会へも陳情を繰り返した。外部へ

の働きかけばかりやっても駄目との助言もあり、商店会の中に活性化委員会を立ち上げることにしました。「活性化」という、いかにも上からのお役所言葉に違和感がありましたが、従うことにしました。十数人の若手が週に二、三度集まって議論したり、市から派遣された専門家から全国の事例や宅配事業、高齢者の対策、果てはラッピングの講習などもありました。活性化委員会には県からの助成がつけられたのですが『活性化調査報告書』の提出が義務づけられていました。そのために地域の8自治会と幼稚園にお願いし、アンケートや商店会の実態調査を行ったりしました。まとめるにあたり、塩屋商店会より塩屋をあらわす言葉がいるとなり、地域を見回したり、アンケートの内容を見ながら話し合う中で、塩屋商店会にしても塩屋にしてもこじんまりしているし、商店会そのものを特徴づけるより一体のものとして考えたらどうかとの提案で「歩くまち、塩屋」と。あれから30年、今も「歩くまち、塩屋」。



塩屋的商店探訪 vol.7

ぐんぐんフラワー「花屋をするために塩屋に戻ってきたんです。」

「花屋をする前はね、『足元良いかー？足元ヨシ！』って号令掛けたりする、土木現場にいたの！」小柄な郡司さんからは想像がつかないような単語が次々に飛び出し、あっという間にぐんぐんワールドに引き込まれてしまいました。現在も花屋という枠にとらわれず、講師やイベント企画などマルチに活躍中。そのパワフルさの秘密に迫ります。

塩屋生まれ塩屋育ちの郡司さんでしたが、建築土木の専門学校時代は京都に移住。卒業後はエクステリアなどを手掛ける造園の分野を志望していましたが、就職氷河期の影響もあり、滋賀の工務店に就職します。就職後すぐに造園土木の部署に配属され、なんと砂防ダムの現場に従事することになりました。「植えるんじゃなくて、真逆の木を切る仕事だったんです。思っていたのと違うなと感じながら現場に行く日々でした……。ある時、現場の山の上に祀られていた山の神様のところにふと上がってね、手を合わせてみたんですよ。そしたらね……。『花屋さんになりなさい』って言われたような気がしたの！ やりたいのはこれじゃないのっていうもやもやからの心の叫びだったんかもしれないけれど、花屋になろうと思ったきっかけはそれでしたね。」砂防ダムの仕事を辞めて、花屋のキャリアをまずはアルバイトのかけもちから始めます。大きな転機は、当時一番お世話になっていた花屋さんからブライダルの事業を始めるにあたり手伝ってほしいと声がかかった事。滋賀県の店なのに現場が神戸の会場だったので、週末になる度に滋賀と神戸を往復。疲れ果てて、帰宅後くたくたでそのまま寝てしまうような日々を過ごし



ぐんぐんフラワー 郡司枝美

住所：垂水区青山台 2-8-7-102

文・清水理恵子

のアトリエに移転し現在に至ります。春は、卒業・入学で式典用の花や花束を制作したりと忙しい時期ですが、他にもカルチャー教室講師やイベントの企画運営なども手掛けています。最近では、アトリエにいるとお花以外の悩み相談が増えてきたらしく、人が集まりやすい体質なのかなと自負する郡司さん。悩みを解決し合うコミュニティを作る事にもチャレンジしてみようかと企てているそうですよ。楽しみです！塩屋幼稚園時代のお便りには「桃の花びらを集めていい匂い！と楽しんでいました」と書かれていたり、砂防ダム勤務時代にはウンボに乗せてもらって柿の実もぎをするなど、植物好きエピソードが尽きず、やっぱり花屋が天職だったのでは？と問いかけると「名前が枝美（えみ）やしね！」と綺麗にインタビューを締めくれた郡司さん。皆さんも会いたくなっちゃいますよね？現在、月に1～2回、塩屋駅前のしおみちゃんの家で切り花と苗物の出張販売をして下さっています。街で買って帰るよりも良心価格の為、固定ファンも増加中。是非、お花と共にぐんぐんワールドも堪能しに、アトリエはもちろん、出張販売にも遊びにいらしてください。出張販売の予定はぐんぐんフラワーInstagramやしおみちゃんの家 の掲示物でご確認くださいね。

北陸の大地震で明けた新年。塩屋でも揺れたので、29年前のあの日が頭をよぎった方も多かったのでは？世界に目を転じて、憂いばかりで心が塞ぐ。そんな中、SUPER BEAVER「幸せのためにいきているだけさ」のMVで塩屋が大ファイチャーされ、日々の暮らしの中で「幸せ」を感じる瞬間が撮影されたり、塩中生がNHKのど自慢に出場したり……。小さな「幸せ」が塩屋にはある。

発行元：一般社団法人塩屋商店会 (7号)

神戸市垂水区塩屋町3-6-15

078-767-9408 www.nice-shioya.jp

shioya.syotenkai@gmail.com

塩屋商店会の発行する新聞です。

記事へのご意見、ご感想お待ちしております。

